

週報

こひつじ

第40巻 41号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

のがれの町

その二 隠れ場なる神

では、この「のがれの町」は何ってどんなに大きな慰めだろう。を象徴しているのだろうか。

私たちの「隠れ場」である神と、人に責められ、つらく、悲しいとき、人生に失敗し、どうしていかわからぬとき、私たちが向かうべきところは「隠れ場」なる

詩篇は神について歌う。いかわからぬとき、私たちが向かうべきところは「隠れ場」なる神である。

「あなたは私の隠れ場。あなたは苦しみから私を守り」（詩篇三二の七）と。放蕩息子は財産を使い果たし、豚の食べるいなご豆で腹を満たし

また讚美歌作者は歌う。たいと思うほどに落ちぶれた。それ

「岩なるイエスはわが身を、みものとき彼は本心に立ち返り、自分に引き上げ、裂け目の中にやすの罪を悔いて父のもとに帰る決意

〇六番）をす。そんな息子を父は拒絶した。だ

神がどんなときも私たちをかくうか。否である。父は喜んで彼をまっすぐださるといふ思想は、困受け入れ、保護したのではなかつたか。難の多い人生を旅する私たちに

父こそはまことの「隠れ場」であったのだが、かなわなかった。彼あることを息子は知っていたのだ。は日記にこう記す。

四国ほどの小さな国に六つの「のがれの町」をつくり、さらに三つを加えるように命じられた神は、人の罪や過ちをゆるすことにな自分なのだろう。

だれでもへりくだって父のもとにゆきさえすれば、父はその人をゆるし、ご自分の住まいにかくま

つてくださるといふのだ。彼はその苦悩を抱えたままアマ

のちに日本を代表する伝道者となり総長に出会う。そこでシ

なった内村鑑三は最初の結婚に失敗した。それは彼に深い罪意識を

与えた。どうしてよいかわからず、彼は「のがれの町」を求めてアメ

リカに渡ったのだ。それを求めてアメリカに渡ったのだ。そのときの気持ちをこう書いて

いる。「ただ『来たらんとする怒り』から逃れる唯一の避難所としてそこ

を選び」と。アメリカでは精神薄弱児養護院

で、子どもたちから「ジャップ、ジャップ」と卑しめられながらも

看護人として働き続けた。社会奉仕によって自分の心をいやそうと

平和を与えた。彼の魂に最終のや

すらぎを与えることのできた「の
がれの町」は、ただイエスのもと
にゆき、イエスを仰ぎ見ることだ
ったのである。
彼はのちに、こんな詩を書いて
いる。

彼らは言う、
われは罪人なりと。

われはまことに罪人なり。
われはイエスを仰ぎ望む。

彼らは言う、
われは偽善者なりと。

あるいはしからん。
われはイエスを仰ぎ望む。

彼らは言う、
われは見るに醜し、

交わるに快からず、
無礼なり、傲慢なり、

過度に独立なりと。
われは、しかあるを悲しむ。

これごとごとく
わが過失にあらず。

われはイエスを仰ぎ望む。

私たちも人の言葉に翻弄される
ことがあるだろう。しかし私たち
の安住の場は、人の言葉にはない。

ただ「イエスを仰ぎ望む」ことに
ある。救いはそこにある。神に帰
りさえすればよいのである。「のが
れの町」は遠くにではなく、常に
近くにあるのだから。(続)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前10時から、
第二礼拝は午前11時から。
○教会学校は午前10時から。
○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は宮元隆博さん。奏楽は
吉岡裕美さん。
○説教は、第二サムエル記一章
からダビデの罪について。

彼が誘惑に落ちたのはなぜであ
ったか。それは彼がいるべき場所
にいなかったからだと語りました。
いるべき場所とは、今日の義務で
す。

今年、私(米村)は七九歳になり
ますが、今なお、なすべきことが
与えられていることに感謝してい
ます。

先週の出席

○礼拝参加者は、第一礼拝が三
九名、第二が三二名、合計七一
(男二三、女四八)。それに子ども
が二名、合わせて七三名でした。

『こひつじ Jr』

『こひつじ Jr』第二八号が発
行されました。今号の「あの人イ
ンタビュー」は徳永公子さん。「編
集室から」は、山村孝正さんです。

受付にありますので、来られたと
きお受け取りください。

奉仕及び旅行の日程

十一月一日(木)、一日(金)
はJEC(日本福音教会)という
伝道団体が主催する「婦人セミナ
ー」の講師として、私たち夫婦が
招かれています。

第一会場は兵庫県の西宮福音教
会(七、八〇人が参加予定)、第二
会場は大阪府堺福音教会(約一一
〇人が参加予定)。それぞれ午前、

午後二回のセミナーです。

婦人セミナーが終わると、奈良
県生駒市にある関西聖書学院(K
BI)に移動し、翌一六日(土)は
学院のチャペル(午前九時)で奉
仕します。

その日は学院に宿泊し、翌日(一
七日)は富浦舎監の母教会である
国分福音教会(大阪府)の礼拝で奉
仕の予定です。

礼拝のあとは、新幹線で浜松に
向かいます。一七日(日)夜から一
九日(火)の朝まで、グレイスフェ
ローシップの交わり会が開かれま
すので、それに出席します。参加
予定者は、日野の岩崎牧師、海老
名の水上牧師夫妻、浜松の久志目
牧師夫妻、掛川のポール・ボストロ

ム宣教師、ジョン・ボストロム宣教
師、大阪の豊田牧師、彦根の下沢
牧師、それにぼくたちです。今回
は特別に、札幌の菅原牧師夫妻が
参加されます。

牧師会がすむと、一九日(火)午
後に東京に向かいます。千葉の施
設にいる姉や長男の耕一家族を訪
問し、熊本へ帰るのは二一日(木)
の予定です。